

6 土屋に伝わる詩歌

(1) 土屋音頭

1 ラッタ ラッタラ タ タ

土屋よいとこ 土のお村よ

ふじをはるかに 山と水 山と水

裏のおやまに 朝日がひかる

朝日がひかる

日が光る 日が光る

4 ラッタ ラッタラ タ タ

土屋よいとこ 高きのぞみの

七国峠 七村よ 七村よ

夢ははてなし 文化の里よ

文化の里よ

よい土屋 よい土屋

2 ラッタ ラッタラ タ タ

土屋よいとこ 乳のお村よ

空をあおいで 牛がなく 牛がなく

両手やさしく もみだすお乳

もみだすお乳

白い乳 白い乳

5 ラッタ ラッタラ タ タ

土屋よいとこ 人のお村よ

老いも若きも 手をとって

手をとって

みんな仲よく 笑顔でくらす

笑顔でくらす

よい土屋 よい土屋

3 ラッタ ラッタラ タ タ

土屋よいとこ 風はさわやか

心は清し 気は清し 気は清し

丘はみどりに れんげ花咲く

れんげ花咲く

ざぜん川 ざぜん川

(2)

土 沢 賛 歌

作詩 野口 一郎

作曲 鈴木徳一郎

お か の ひ ろ ば に ひ と の わ つ く り
お ど る う た ご え た い こ の ね い ろ
ひ び く こ だ ま は や ま さ と こ え て
つ ち さ わ よ い と こ わ れ ら の ち い き
お ど る お ん ど に そ う ろ う あ し

土 沢 賛 歌

作詩 野口 一郎
作曲 鈴木徳一郎

1

丘の広場に 人の輪つくり
踊るうたごえ 太鼓の音色
ひびくこだまは 山里こえて
土沢よいとこ われらの地域
踊る音頭に そろう足

2

澄んだ青空 緑も映えて
進む作業は 心もはずむ
明日のみのりに 願いをこめて
土沢よいとこ われらの地域
はげむ身体に ひかる汗

3

東に吉沢 西には土屋
清きせせらぎ 草木もゆる
みんな一つに 心をあわせ
土沢よいとこ われらの地域
築こう明日への よい社会

(3) 忠魂碑の歌

- 1 お国のために いさぎよく
花と散りにし 人々の
みたまはここにぞ 静まれる
- 2 命はかるく 義は重し
その義をふみて 大君に
命ささげし ますらおよ
- 3 村の真中の 人増に
石碑と 高くまつられて
ほまれは世々に 残るなり

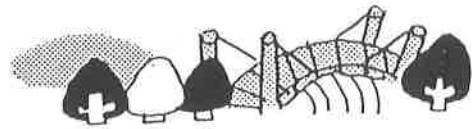
(三月十日に歌った詩)

(4) 唐臼唄

- うすの廻るように 仕事が廻りゃ
倉を建てます ななとまい
ふうべ夢みた 大きな夢を
お富士お山を 鳶がさらう
奈良の大仏様を あおがして
ゆうべ夢みた 地獄の夢を
鬼が餅つくえんま(閻魔)が てやし
そばで地蔵様が 食いたがる

(5) 麦打ち唄

- 雲らば 曇れ 箱根山
晴れたとて お江戸は
見えやせぬ
大山不動 たがたてた
しめしき こやす(子易)
さんのう原(山王原)
お寺の部屋で 御子が泣く
おだましょう やれう
うらへ出て
れんげの花を ベーロシャラ



(6) 土屋基句

作詞 小清水守三

1 セー

土屋よいとこ歴史の里よ
古き鎌倉時代には
頼朝公の側近で
土屋三郎宗遠の
今に残せしその墓と
今に残せし館跡
遠き相模のつわものよ

2 セー

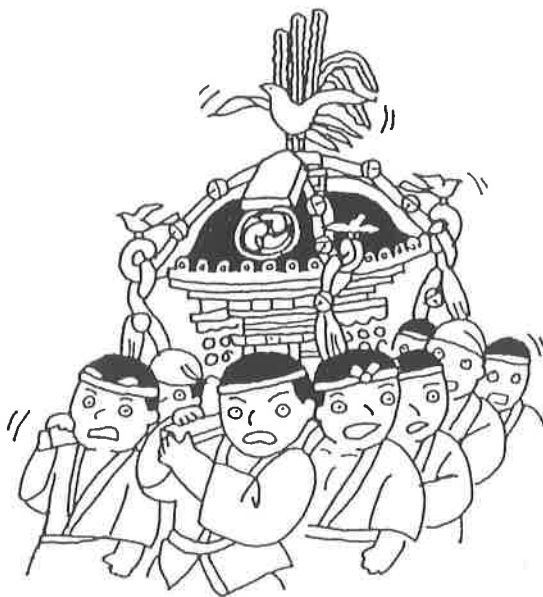
土屋名代は熊野神社の神輿
紺で揃った半天は
熊野神社神輿保存会
小熊ふりだし遠藤原
庶子分、人増、大寺分
稲穂くわえた鳳凰が
羽根を揺らせてゆさゆさと
部落、部落をうかれゆく

3 セー

太鼓祭りは
春は桜の愛宕山
部落自慢の太鼓連
染井吉野か八重桜
桜そこのけ山車が行く
腕を競いし馬鹿っぱやし
今年は何処が鳴ったやら
桜吹雪が杯に
舞い散る愛宕の花見酒
丹沢山まで打ち鳴らせ

4 セー

土屋の野山に鳴く鳥は
正月笛鳴き鶯よ
梅が咲いたらホーホケキョ
三月そろそろ揚げ雲雀
燕飛び来る春四月
五月頬白おちこちに
一筆啓上つかまつる
六月梅雨の田圃には
くいなの叩くいとおかし
七月小綬鶏の親子連れ
蟬の野山を一巡り
八月日照りに小雀は
小川の浅瀬で水遊び
月の九月に雁が行く
十月柿の実秋めじろ
むくどり千羽霜の月
師走のひよどり春を待つ



(7) 熊野神社 神輿保存会甚句 作詞 宮司 武藤一枝

1 セーエー

莊厳（そうごん）なる
熊野神社のみそのねよ
御苑（ぎょえん）の繁みはうっそうと
けやきの古木は清風（きよかぜ）に
神苑（みその）の奥に宮び建つ
今の世稀（まれ）な厳（いか）しさに
匠（たくみ）の妙技（わざ）のノミのあと
祖先を祀（まつ）る信仰の
あつい心に 感ふかく

2 セーエー

勧請（かんじょう）杉苗
熊野本宮 御祝典（みまつり）に
世話人達が招かれて
栄（はえ）の代表参拝し
尊い神符（みふだ）と杉の苗
かたじけなくも勧請し
かしこき本宮の神威（しんい）こめ
未来に伸びよ熊野杉

3 セーエー

化粧なおしたよ
眩（まばゆ）いばかりなこの神輿
御神輿に集え若者よ
担（かつ）いで練（ね）って睦（むつ）みあり
甚句を唄え音頭とれ
祈れ土屋の弥栄（いやさか）を
守れ氏子のよ幸せを

（注）勧請：神仏の御霊を移し
祀ること

（注）弥栄：今よりも
もっと栄えること

